

III

地 理

問題は、次のページから書かれていて、I、II、IIIの3題ある。

解答は、問題ごとに与えられた指示にしたがって、答案紙の所定の解答欄に書き入れよ。

地理 問題 I

自然環境に関する次の問 1～2 に答えなさい。

問 1 次の図 1 は阿賀野川下流域周辺の地形図である。この図に関して下の(1)～(3)に答えなさい。

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

国土地理院の資料により作成。

図 1

- (1) 図1中の集落の分布の特徴を、地形条件から答えなさい。
- (2) 図1中で最も多くを占める土地利用を答え、そのような土地利用となる理由を地形条件から答えなさい。
- (3) 図1中で想定される自然災害とその対策を、地形の特徴に着目しながら説明しなさい。

問 2 次の表1のア～エは、ほぼ同緯度に位置する、サンフランシスコ、ソウル、チュニス、新潟の各都市における月別の平均気温(℃)と降水量(mm)である。この表に関して下の(1)～(4)に答えなさい。

表 1

	気温(℃)												降水量(mm)											
ア	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温	11	12	13	14	15	17	18	18	18	17	13	11	99	100	69	35	13	4	0	1	2	20	50	106
降水量	99	100	69	35	13	4	0	1	2	20	50	106	16	28	37	72	104	130	415	348	142	52	51	24
イ	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	16	28	37	72	104	130	415	348	142	52	51	24
気温	-2	1	6	13	18	23	25	26	22	15	8	0	181	116	112	97	94	121	222	163	152	158	204	226
降水量	181	116	112	97	94	121	222	163	152	158	204	226	12	13	15	17	21	25	28	29	26	22	17	14
気温	12	13	15	17	21	25	28	29	26	22	17	14	59	56	48	38	23	12	4	14	46	57	54	63
降水量	59	56	48	38	23	12	4	14	46	57	54	63	12	13	15	17	21	25	28	29	26	22	17	14
気温	12	13	15	17	21	25	28	29	26	22	17	14	59	56	48	38	23	12	4	14	46	57	54	63
降水量	59	56	48	38	23	12	4	14	46	57	54	63												

気象庁の資料により作成(1991-2020年の平均値)。

- (1) ア～エの都市名をそれぞれ答えなさい。
- (2) 新潟のハイサーグラフを解答用紙に描きなさい。グラフの横軸と縦軸には、適切な数値を記載すること。
- (3) 季節によって風向きが変化する大規模な風を何というか、その名称を答えなさい。またこの風が、日本列島の日本海沿岸地域の冬季の気候に与える影響を説明しなさい。
- (4) 気候や植生は土壌と密接に関係し、地球上で帯状に分布する土壌を成帯土壌という。成帯土壌のうち、日本列島に広く分布する土壌を一つ挙げ、その特徴を説明しなさい。

地理 問題Ⅱ

都市・村落と人口に関する次の問1と問2に答えなさい。

問1 次の図1は、愛知県庁から県境まで地図上で直線を引き、その地形断面を示したものである。この図1と下の文章を見て、下の(1)～(5)に答えなさい。

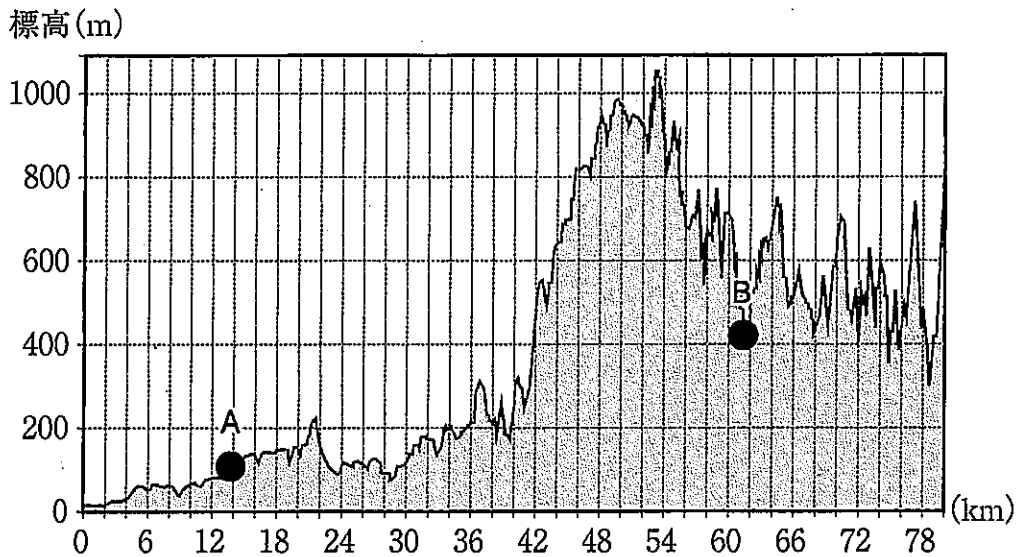


図1

国土地理院「地理院地図」を用いて作成。

①の周辺では、1970年代以降、住宅地開発などによって農地が減少し、^(a)職住分離が進行して、農業生産の場としての機能が減少する一方で、商業施設が多数進出するなど、生活の場としての機能が強まっている。他方で、旧来の住民が所有する農地を利用して、新たに移住してきた住民などを対象にした^(b)市民農園が開設されている。

これに対して ②の周辺では、1960年代以降の人口流出などの結果、^(c)限界集落と呼ばれる地区が出現している。農業に関しても、担い手の不足による耕作放棄地の増加、鳥獣による農作物被害の拡大などの問題が生じている。これらの状況を打開するために、周辺の自治体とともに、^(d)さまざまな地域活性化が進められている。

- (1) 上の文中の①および②には、図1のAまたはBのいずれかの地域が該当する。①と②のそれぞれに該当するものを記号で答えなさい。
- (2) (a)の職住分離とはどのようなものか、この文章の内容に即して説明しなさい。
- (3) (b)の市民農園が、旧来の農地を利用して開設された理由について、この文章の内容に即して考えられる事柄を挙げなさい。
- (4) (c)の限界集落とはどのようなものか、説明しなさい。
- (5) (d)の地域活性化の方策として、現在の日本で一般的に取り組まれている事柄を2つ例示しなさい。

問 2 次の表 1 は、日本の都市の中から人口 40 万を超える都市を 3 つ選び、いくつかの指標に関する数値を示したものである。この表を見て、下の(1)~(2)に答えなさい。

表 1

この部分につきましては、
著作権の都合により公開いたしません。

統計数値の年次は指標によって異なり(2016～22年)、数値は概数の場合がある。事業所数は民営のものに限る。
東洋経済新報社『都市データバック 2023』により作成。

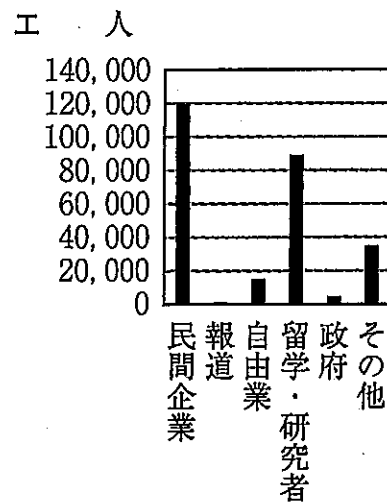
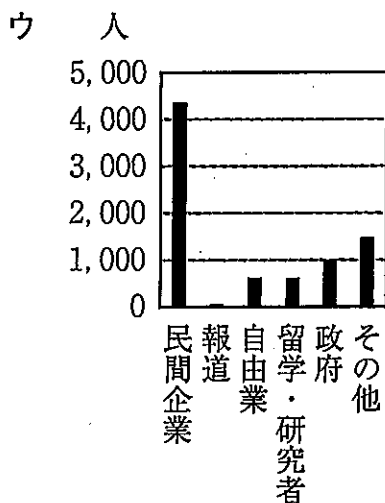
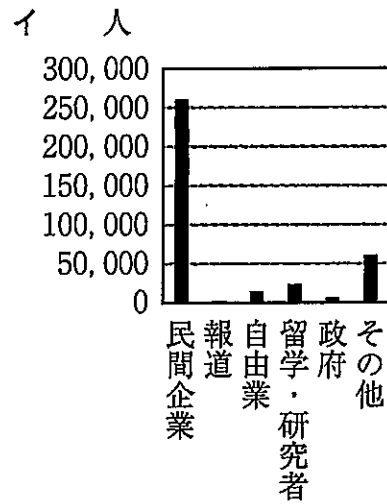
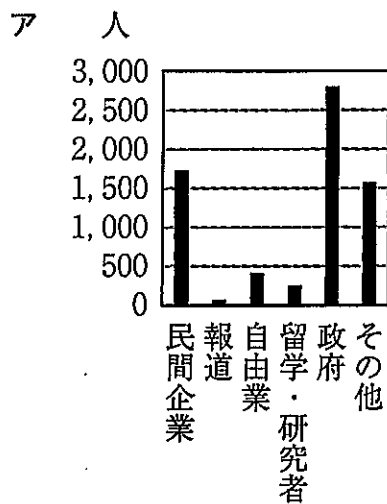
- (1) X～Zはそれぞれ、愛知県豊田市、石川県金沢市、大阪府豊中市のいずれかである。X～Zのそれぞれに該当する都市名を答えなさい。ただし、府県名は省略してよい。
- (2) 人口規模が同等程度の都市であっても、これらのX～Zの諸都市の特徴は互いに大きく異なっている。表1の数値から読み取れる、X～Zのそれぞれの都市の特徴について、相互に比較しながら300字以内で説明しなさい。

地理 問題Ⅲ

人口・経済・環境に関する次の問1～5に答えなさい。

問1 次の図1のア～エは、アジア、アフリカ、北アメリカ、南アメリカにおける日本人の長期滞在者*を職業別に示したものである。ア～エに該当する地域として最も適当な地域名をそれぞれ答えなさい。

* 3か月以上海外に在留している日本人の内、海外での生活は一時的なもので、いずれ日本に戻るつもりの人々。



海外在留邦人数調査統計により作成。統計年次は2017年。

図1

問 2 ブラジル大豆生産について、下の(1)～(3)に答えなさい。

- (1) 次の図2のa～dは、主要生産国(2022年現在の上位4か国)における大豆の生産量の推移を示したものである。ブラジルに該当するものとして最も適当なものをa～dから1つ選び、記号で答えなさい。

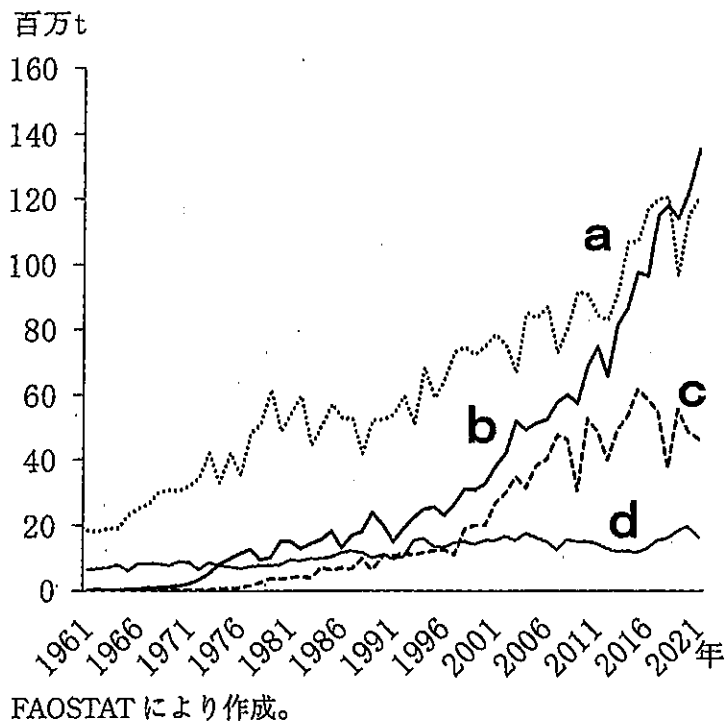


図 2

- (2) ブラジルにおける大規模な大豆産地が位置する地域は、元々「不毛の土地」と呼ばれていた。それが世界有数の生産地域に発展した理由を述べなさい。
- (3) 上の(2)の大豆産地が主として属するケッペンの気候区を答えなさい。

問 3 都市と自然環境の関係について、下の(1)～(3)に答えなさい。

- (1) 次のページの表1は、自動車レースF1(フォーミュラ1)の開催地の一部を示したものである。一般に、空気が薄い地域ではF1マシンの内燃機関に大きな負荷がかかるといわれる。表1の開催地の内、酸素濃度の観点から最も内燃機関に負荷のかかる都市として適当なものを1つ選び、その名前を答えなさい。

表1

	開催都市(2022年)
第2戦	ジェッダ(サウジアラビア)
第17戦	シンガポール(シンガポール)
第20戦	メキシコシティ(メキシコ)
第21戦	サンパウロ(ブラジル)

(2) (1)で解答した都市では大気汚染の問題が深刻化している。その対策として行われている取り組みを説明しなさい。

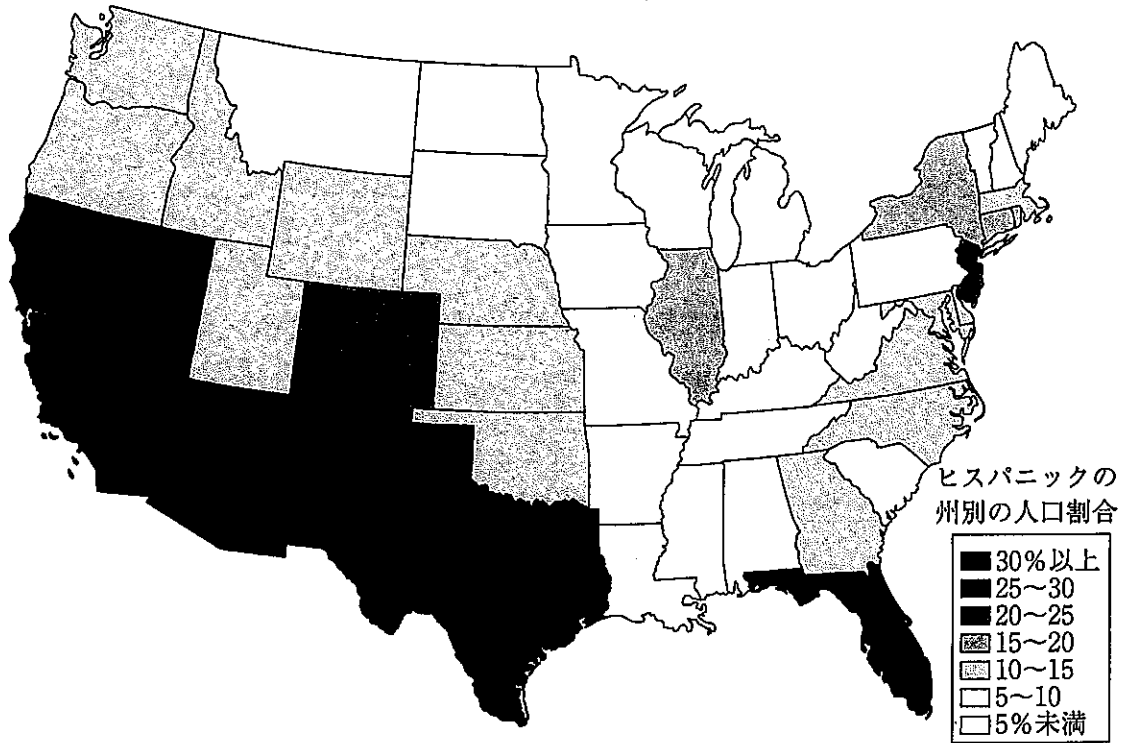
(3) (1)で解答した都市と同様の自然条件を有する都市は、世界の中でも低緯度地域に多くみられる。それらの都市が発達した背景を説明しなさい。

問4 自然環境と資源に関する次の文章を読んで、カ～ケに該当する語句として最も適当なものをそれぞれ答えなさい。

ボリビアの高地にある(カ)は世界有数の塩湖である。かつて海底に位置していたこの地域の(キ)により、取り残された海水が湖を形成した。その後、乾燥が進むことで現在に至った。塩の層の下にある湖水には(ク)が含まれる。(ク)は、携帯電話や電気自動車などのバッテリーの原料として使用されることから、世界的に需要が高まっている。しかし、その(ケ)は地理的に限られ、安定確保が各国の重要な課題となっている。

問 5 次の図3は、アメリカ合衆国の各州*の人口に占めるヒスパニックの人口割合を示したものである。ヒスパニックの人口分布の特徴について説明しなさい。

*アラスカ州とハワイ州を除く。



U.S. Census により作成。統計年次は 2021 年。

図 3